

(第7号様式の2)

### 事業報告書

(※必要に応じて枠を広げてご記入ください。)

1 事業名	「うみやま連合防災部会」 組織づくり・人づくり・つながりづくり事業
2 事業実施期間	令和4年 7月 ~ 令和5年 2月
3 事業実施内容 *具体的に記入してください。	(別紙参照) ・基礎人材講座(全6回)ー銘苅小まちづくり協議会 ・足元を知るための地域分析手法ー稲垣暁・宮道喜一 ・まち防災ゼミナール 「いしみんな防災勉強会①②」石嶺小まちづくり協議会 「曙地域地震・津波避難訓練」曙小まちづくり協議会 「災害時報道の現場訪問」銘苅小まちづくり協議会 「地域防災への取組」銘苅小まちづくり協議会 ・ドローン防災ゼミ DMPO 「地域防災におけるドローン活用」DPMO-沖縄
4 事業実施における数値目標 (中間報告書で示した数値)	中間報告では、講座受講生を中心に各校区・自治会等で講座・実習・ワークショップ等を合計30回公開・開放して地域連携の新たな試みを発展させていく数値目標をかかげました。 今回は21名の受講生がおり、出席率(70%以上)が10名(内受講後に防災士資格取得4名)いましたので、数値目標達成できるように「安謝川防災大学」の活動を継続させて受講生が各地域での講座・実習・ワークショップ開催ができるようにサポートしていきたい。
5 上記4の数値目標の達成度	90パーセント達成。 (理由として、コロナ禍の影響があり中学生・高校生への防災講座ができなかった。しかし、今回の講座資料を踏まえて中学生・高校生へ防災講座を行い、世代間交流を進めたい)

6 事業の成果	<p>(対象や地域、社会にどう貢献したかなど)</p> <p>石嶺小・曙小・銘苺小と3校区で「安謝川防災大学」を設立し、防災について勉強することができました。そこから防災士講座を4名が受講し4名が防災士資格取得につながりました。</p> <p>また地域自治会からの参加があり、地域防災を考える機会となりました。</p>
7 評価	<p>① 良かった点、工夫したこと</p> <p>各校区（石嶺小・曙小・銘苺小）で講座・ゼミナール・フィールドワークを開催、受講生（21名）だけでなく各校区で開催されて講座・ゼミナールへ校区まちづくり協議会のメンバーが参加してくれた。</p> <p>② 苦労したこと、改善点、今後に活かしたいこと</p> <p>講座スタート当初、コロナ禍の影響があり受講生募集の情報発信が遅れてしまったこと。</p> <p>また、講座スケジュールは事前に告知していましたが具体的な内容を伝えることが遅れて点は改善し、今後につなげたい。</p>
8 今後の展開 (継続、内容変更、終了など)	<p>今回の受講生が安謝川防災大学で講義を持ち、講座を発展させていきたいです。地域においては「避難行動要支援者の支援体制づくり」は防災だけでなく地域福祉も含めた取り組みが必要の為、防災・福祉と合わせて地域で広めていきたい。</p> <p>連合防災部会による各まち協で地域リスク・リソースを洗い出し、分析・評価を行ったうえで地区防災計画づくりを進めたい、そして連合防災部会および各まち協で、「発災後 72H タイムライン作成」「まち協や自治会の BCP づくり」実践のきっかけづくりとする。</p> <p>また、他のまち協や自治会における連携した活動の場づくりや組織化のニーズに対し、まち協連携モデル事業として研修や支援を行う体制をつくる。そこから、安謝川水系の他のまち協や自治会の参画を呼びかけ、更には小祿地区まちづくり協議会・自治会・自主防災会・包括支援センター・那覇市社協など防災セクターが積極的に連携を進めている小祿地区とも連合し、那覇の南北両端で「なはなんぼく・うみやま連合防災部会」に発展させたい。</p>
9 その他の意見、感想など	<p>地域活動がコロナ禍で機能不全となり地域を主体とした自主防災活動の大半が停滞していたが今回の講座を通じて、校区まちづくり協議会・地域自治会から多くの参加があり防災・福祉と地域活動が再活動していくきっかけになったと実感した。</p>

